大阪大学総合学術博物館ニューズレター

まちかねミュージアム Vol.8

発行 /2024.9.27
発行者 / 大阪大学総合学術博物館
〒560-0043
大阪府豊中市待兼山町 1-20
博物館ホームページ URL
https://www.museum.osaka-u.ac.jp

大阪大学総合学術博物館第 26 回企画展
懐徳堂創立 300 周年記念展覧会

懐徳堂って知ってはる？

―大阪大学が受け継ぐなにわ町人の学問所―

大阪大学の精神的源流の一つである懐徳堂が開かれたのは、今から 300 年前の享保 9（1724）年の秋でした。町人たちが資金を拠出して実現し、享保 11（1726）年、幕府の官許を得て「学問所」となりました。

明治となり閉学した学問所を、大阪の街に再興しようと大阪の財界が動き、明治 43（1910）年に懐徳堂記念会が作られ、大正 5（1916）年に「重建懐徳堂」が建てられました。専属の研究者も置き、京都などから講師を招くなどして、講座も開かれて、大阪の文化的活動を担うこととなりました。

昭和 20（1945）年 3 月の空襲で重建懐徳堂は焼失しました。耐火書庫に収めてあったので焼けずに済んだ書籍が、文科系学部が作られて大阪の文化を担うことが期待される大阪大学に寄贈されることとなり、懐徳堂の精神が大阪大学に受け継がれたのです。

本展覧会では大学所蔵の懐徳堂資料から、懐徳堂の歴史や学問の系譜を示すものを、草創期・繁栄期・終焉期・重建期に分け展観します。各時期の重要な数点をピックアップし、関係資料をあわせて展示することで、懐徳堂の学問所としての空間、その授業の実態、そこに集った人たちの交流、そこに生まれた文化などを具体的にご覧いただけるものと思います。

展示を通じて、懐徳堂の学問の精神が現在の大阪大学へと継承されていること、大阪の地における学問の命脈を感じ取っていただければ幸いです。

会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3 F 多目的室
会期：令和 6 年10月12日（土）～12月 7 日（土）
会場：大阪大学中之島芸術センター展示室（大阪大学中之島センター 4 階）
会期：令和 6 年10月24日（木）～10月30日（水）
【主催】大阪大学ミュージアム・リンクス（大阪大学総合学術博物館・大阪大学適塾記念センター・大阪大学アーカイブズ）・一般財団法人懐徳堂記念会
【共催】大阪大学文学部・大阪大学大学院人文学研究科・大阪大学 21 世紀懐徳堂・大阪大学中之島芸術センター・懐徳堂研究センター

展覧会報告

第 20 回特別展
「トヨナカ写真／マチの肖像　1950 － 2000」

当館では豊中市と連携した企画を行ってきましたが、今年度は戦後豊中で撮影された写真を展示し、20 世紀後半の現代史を振り返りました。

かつて豊中は、田畑や丘陵が広がるのどかな地域が多数を占めていました。それが戦後の高度経済成長期に開発が進められ、南部には長屋などの住宅が、北部には丘陵を切り開いて団地やニュータウンが開発されました。本展では、「Ⅰ かつてのトヨナカ」「Ⅱ 変ってゆくトヨナカ」「Ⅲ トヨナカの現在へ」という構成によって市域の変貌を捉え、写真 70 点、映像 4 点、実物資料 7 点を展示しました。実施にあたっては、事前に市の広報などで写真・映像を募集し、また北摂アーカイブスや豊中市の施設が所蔵する写真や実物資料などを展示しました。

来館者アンケートでは、回答者の 40%が豊中市民で、かつて豊中市に居住していた方もおられ、「懐かしかった」という感想を数多くいただきました。一方で、写真資料の重要性やアーカイブの役割を認識したという声もありました。現在の豊中市は住宅都市であり、ともすれば特徴のない町のように思われがちですが、各地域には個性があり、暮らしや住まいも時代によって変化しています。今後も、地域の姿を捉えた写真・映像を収集する

ことが重要であり、市民の回想談などをオーラルヒストリーとして記録することも大切になると思います。これからも豊中市の過去と現在を追っていきたいと考えています。（船越幹央）

会期：令和６年７月17日（水）～８月17日（土）
会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 ３階多目的室
主催：大阪大学総合学術博物館、豊中市

令和６年度適塾特別展示／大阪大学総合学術博物館 第19回特別展

【大阪大学微生物病研究所創立90年･藤野厳九郎生誕150年】

三人の藤野先生、その生涯と交流

－升八郎と洪庵、厳九郎と魯迅、恒三郎と遼太郎－

本展は、令和６年度適塾特別展示、総合学術博物館第19回特別展を兼ねたミュージアム・リンクスが主催する初の展覧会となりました。適塾展示として門下生の藤野升八郎を取り上げるだけでなく、升八郎の息子で中国の文豪魯迅に恩師と仰がれた厳九郎、升八郎の孫で腸炎ビブリオ発見者の藤野恒三郎（阪大）を取り上げました。

いずれも新出の史料を豊富に盛り込み、藤野家伝来の書や手紙、写真、書籍等112点の資料から、三人の藤野先生の系譜を辿り、藤野家に流れる適塾、洪庵の精神を見出すという構成をとりました。恒三郎に関しては、大学で功績のあった人物を顕彰する意味もありました。

来館者は、魯迅に関わるテーマのため中国の方も少なくなく、準備していた中国語解説冊子が役に立ちました。また、学生教育のため、学生・院生を連れて観覧される教員の先生もおられ、大学の博物館展示として意義を感じました。メディアの反響としては、展示で紹介した厳九郎の新出写真が１面でとりあげられたり（『日刊県民福井・中日新聞』）、中国のネットメディアにもいくつか紹介が出ました。結果として、藤野家に関する関心が高まり、地元福井県内では、藤野厳九郎に関する展示会が実施されたり（福井県教育博物館）、「三人の藤野先生」展と同様の展覧会の実施計画も進められつつあります。藤野家資料は引き続き調査研究を続ける必要があり、さまざまな形で成果を発表していきたいと思っています。（西川哲矢）

会期：令和６年４月24日（水）～６年６月22日（土）
会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 ３Ｆ多目的室
主催：大阪大学ミュージアム・リンクス（大阪大学総合学術博物館、大阪大学適塾記念センター、大阪大学アーカイブズ）、適塾記念会
共催：大阪大学微生物病研究所、阪大微生物病研究会、大阪大学人文学研究科
特別協力：福井県
協力：あわら市、あわら市日本中国友好協会、大野市歴史博物館、司馬遼太郎記念館、東北大学史料館、日刊県民福井・中日新聞、福井市立郷土歴史博物館、福井新聞社、福円寺（あわら市）、松江市立鹿島歴史民俗資料館
協賛：豊中市日本中国友好協会

活 動 報 告

2024 体験！こどもミュージアム @ 大阪大学

子どもたちにさまざまな科学の分野に対する興味や関心を持ってもらうことを目的に、小学校３年生から６年生を対象に開催しました。コース①、②では２種類の実験に挑戦し、握ると沈む不思議な浮沈子作りや、pH によってグレープジュースの色が変わる不思議な現象を体験しました。コース③、④では本イベント初めての試みとして、親子で絵手本を見本に江戸時代の絵を描くこと

に挑戦しました。（辻野博文）

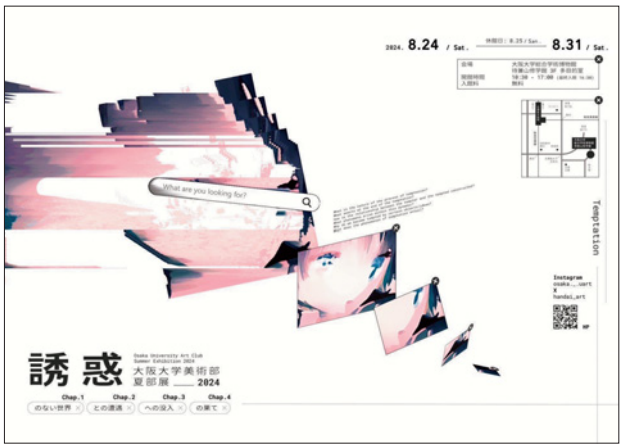
浮沈子 / グレープジュースの不思議
コース①7月23日（火）　13：00～14：30
コース②7月23日（火）　15：00～16：30
【講師】箕面自由学園・教育顧問　十河（そごう）秀敏

江戸時代の絵手本を使って絵をかこう！
コース③7月24日（水）　13：00～14：30
コース④7月24日（水）　15：00～16：30
【講師】大阪大学総合学術博物館・研究支援推進員
　　波瀬山 祥子

美術部夏部展

「阪美：“HANBI”」として活動を展開する大阪大学美術部“Osaka University Art Club”は、夏季休業期間中に日頃の制作活動の成果である部員の作品を結集し、学内外を問わず広く一般の方々に向けた「夏部展（Summer Exhibition）」を開催しています。

今年度は「誘惑：Temptation」というテーマを設定し、「誘惑のない世界（Without Temptation）」、「誘惑との遭遇（Encounter）」、「誘惑への没入（Immerse）」、「誘惑の果て（Finis）」という全四章構成で展覧会を展開しました。



展覧会では、コンセプト、作品、空間デザインなどのすべての要素を美術部が担当し、毎年、総合学術博物館資料部の教員が指導を行っています。本展は、総合学術博物館が特別展や企画展を開催する実際の展示室を使用して実施される本格的なもので、部員たちは作品制作だけでなく、照明技術やパネル設置など展覧会に関するさまざまな技術を学びながら作業を進めています。このような経験は、学生たちの将来の進路に活かされており、複数のOBが学芸員として活躍しています。

また、本展の撤収日は、博物館が毎年開講する「博物館学実習」の学生指導の場としても活用されました。すなわち、博物館学実習の受講生たちは、美術部員という同じ学生が制作した展覧会を鑑賞し、展示の経緯や技術、努力した点などについて意見交換を行い、自らが行う博物館学実習展にその経験を活かしました。

当館では、今後もこのような大学博物館ならではの、教育や学生の活動とリンクした取り組みを積極的に推進していきます。（伊藤謙）

展示風景

会期：令和6年8月24日（土）～8月31日（土）
会場：大阪大学総合学術博物館　待兼山修学館　3階多目的室　※入館無料

博物館学実習展

学芸員養成課程の最終段階には、実践的な科目である「博物館実習」があります。2012年4月に施行された改正博物館法では、従来の学外施設での実習に加え、学内の博物館施設を利用した「学内実習」の実施が奨励されています。

大阪大学総合学術博物館では、法改正に先立ち、2010年度より学内実習を担当しています。実習の内容は、館蔵資料などを用いた模擬展覧会の企画・開催です。学生たちは、展覧会のコンセプト作りから展示空間のデザイン、ポスターやチラシの作成、資料や解説パネルの展示に至るまで、実際の手順に従って主体的に展覧会を作り上げていきます。毎年、短い準備期間にもかかわらず、それぞれに個性と特色を持った展覧会を披露しています。

しかし、例年、様々な事情により、せっかく完成した展示を即日撤去しなければならず、担当教員や実習生のみが観覧する状況が続いていました。それに対して、内外から「せっかくの展示をもっと多くの人に見てもらいたい」との声が寄せられていました。

そこで、今年度から、大阪大学総合学術博物館の博物館実習で企画・開催された模擬展覧会を一般公開する「博物館学実習展」として実施することにしました。未熟な点も多々ありますが、実習生たちの努力とアイデアが結

実した展覧会を楽しんでいただけたことと思います。
　当館では、今後も大学博物館としての教育と連携した展示活動を積極的に展開していきたいと考えています。（伊藤謙）

会期：令和６年９月 14 日（土）～９月 19 日（土）
会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 ３階多目的室
主催：大阪大学総合学術博物館

第６回兼任教員コラム

博物館は各研究科の先生方に兼任教員をして頂いています。このコーナーでは兼任教員の方の活動をご紹介いたします。

松永 和浩（まつなが かずひろ）
大阪大学適塾記念センター　准教授

　総合学術博物館（以下、MOU）の兼任教員は各部局から出されるものだが、私は少し毛色が異なる。まずMOU、アーカイブズ、適塾記念センターにより構成される大阪大学ミュージアム・リンクス（以下、ML）の一員である点だ。2024 年度の第 19 回特別展「【大阪大学微生物病研究所創立 90 年・藤野厳九郎生誕 150 年】三人の藤野先生、その生涯と交流―升八郎と洪庵、厳九郎と魯迅、恒三郎と遼太郎―」は、令和６年度の適塾特別展示を兼ねた、ML 初の主催事業となっている。本展は、私の活動拠点となる適塾記念センターが寄贈を受けた藤野家資料を中心に、藤野升八郎・厳九郎・恒三郎３代の生涯と交流を紹介するものである。升八郎は適塾で学び、厳九郎は魯迅を教え、恒三郎は腸炎ビブリオを発見し、大阪大学微生物病研究所の第４代所長を務めた細菌学者であった。本展の共催には微生物病研究所、阪大微生物病研究会、人文学研究科が名を連ねており、今後も ML としては学内部局のアウトリーチを積極的に支援することを考えている。
　そして、何を隠そう、かつては MOU の一員であった点である。2010 年に助教として加入し、2014 年度まで在籍した。その間、第 15 回企画展「ものづくり 上方“酒”ばなし―先駆・革新の系譜と大阪高等工業学校醸造科―」等を担当した。明治 30 年（1897）に設置された醸造科は全国唯一の醸造学高等教育機関として、酒造業界に多くの人材を輩出した。その一人が日本初のウイスキー蒸留技師「マッサン」こと竹鶴政孝（ニッカウヰスキー創業者）で、この展示をきっかけに朝ドラ「マッサン」の制作に関わることとなった。2015 年に適塾記念センターに移ってからは、2019 年に第 13 回特別展「サントリー第２代社長・佐治敬三生誕 100 周年記念展　大阪が生んだ稀代の経営者　佐治敬三“百面相”」を企画した。私の専門は歴史学（日本中世史）であるが、これらの展示に携わりながら、余技で日本酒史の研究も行っている。ちなみに 2024 年は、竹鶴が寿屋（現・サントリー）の山崎蒸溜所でウイスキー蒸留を始めてから、ちょうど 100 年に当たる。そこで秘かにジャパニーズ・ウイスキー百年史の刊行を目論んでいる。
　さて、MOU と密接な関係にあるわけだが、最後に本来の業務に触れておきたい。適塾記念センターは、幕末の蘭学者・緒方洪庵が開いた適塾とその門下生に関する調査・研究・顕彰活動を担い、冒頭の特別展示や適塾見学会･適塾講座といったイベント、適塾関係資料の収集･保存、適塾建物の維持管理に努めている。現在、建物の防災体制強化を進めており、今年度は現状を記録する実測調査･三次元計測を実施する。その経費の一部は昨年、クラウドファンディングを募り、１千万円を超える寄付を頂戴した。１万円以上の支援者に「一口適塾生」となる制度を創設し、今後は大阪大学未来基金「適塾記念事業」への寄付者にも適用する。市民共有の財産として適塾を末永く守り伝えるため、なお一層、皆様のご協力を得ていきたいと考えている。次なる目標は阪大創立 100 周年に当たる 2031 年を目途に、適塾の展示をリニューアルしたい。同時に、阪大百年史の編纂事業も必要となろうが、マンパワー不足は否めず、体制の整備が求められる。ほかにも銘酒「緒方洪庵」の販売や適塾グッズ制作など、やりたい仕事は書ききれないほど山積みだが、紙幅が尽きてしまった。

編集後記

　今年度から、大学博物館としての教育活動をさらに推進し､｢博物館学実習展｣を新たに開催しました。本展は、実際の展覧会場を使用し、一般公開される展覧会を学生と教員が共に創り上げる大学博物館ならではの活動です。今後も、分野横断的な活動の場としての総合学術博物館にご期待ください。（伊藤）

大阪大学総合学術博物館ニューズレター
まちかねミュージアム
発行日 2024 年９月 27 日
編集発行 大阪大学総合学術博物館
グローバル情報委員会
〒 560-0043
大阪府豊中市待兼山町 1-20
大阪大学総合学術博物館　事務室
Tel：06-6850-6284
https://www.museum.osaka-u.ac.jp/